



2024年7月3日

各 位

会 社 名 株式会社イズミ
代表者名 代表取締役社長 山西 泰明
(コード：8273、東証プライム市場)
問合せ先 取締役経営企画本部長 山西 大輔
(TEL. 082-264-3211)

(訂正) 「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」の一部訂正について

当社は、2024年6月27日に公表いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」の記載内容に一部訂正すべき事項がありましたので、下記のとおり訂正のうえ、訂正後の資料を添付いたします。

記

1. 訂正の理由

「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」の公表後に、記載内容の一部に誤りがあることが判明したため、訂正を行うものであります。

2. 訂正の内容

①現状分析 株価・市場評価について（4ページ）

②現状分析 株価資本コストと資本収益性の比較（5ページ）

詳細は別紙をご参照ください。訂正箇所は赤い四角で囲んでおります。

3. 添付資料

訂正後の資料を添付しております。

以 上

(別紙)

① 現状分析 株価・市場評価について (4 ページ)

【訂正前】

現状分析 株価・市場評価について

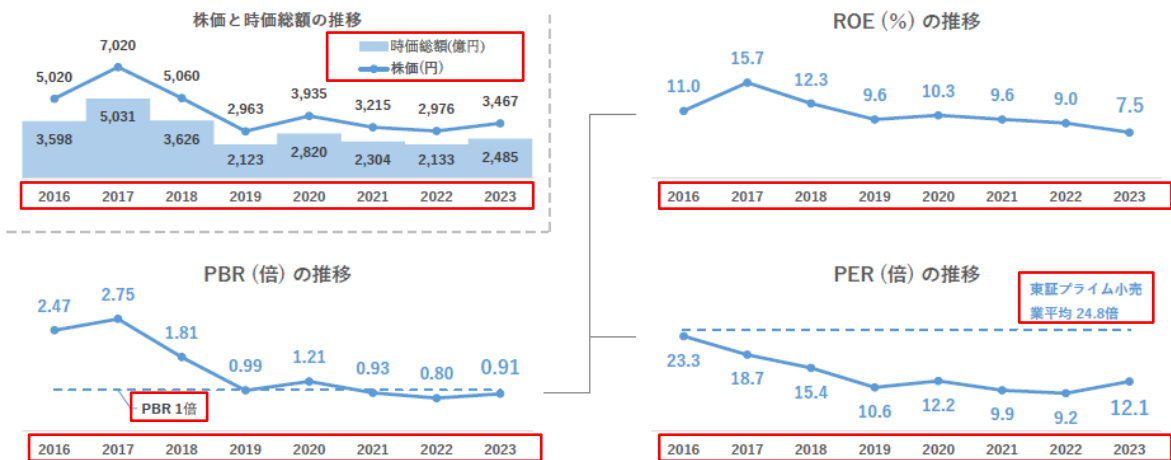
- 堅実経営による収益性、財務安全性向上の一方、今後のROEが上昇しにくい構造に陥っている。
- 新店投資の抑制、軟調な既存店の販売動向から、成長への期待を醸成できていない。
- これらにより、PBRが1倍を下回っていると考えられる。



【訂正後】

現状分析 株価・市場評価について

- 堅実経営による収益性、財務安全性向上の一方、今後のROEが上昇しにくい構造に陥っている。
- 新店投資の抑制、軟調な既存店の販売動向から、成長への期待を醸成できていない。
- これらにより、PBRが1倍を下回っていると考えられる。

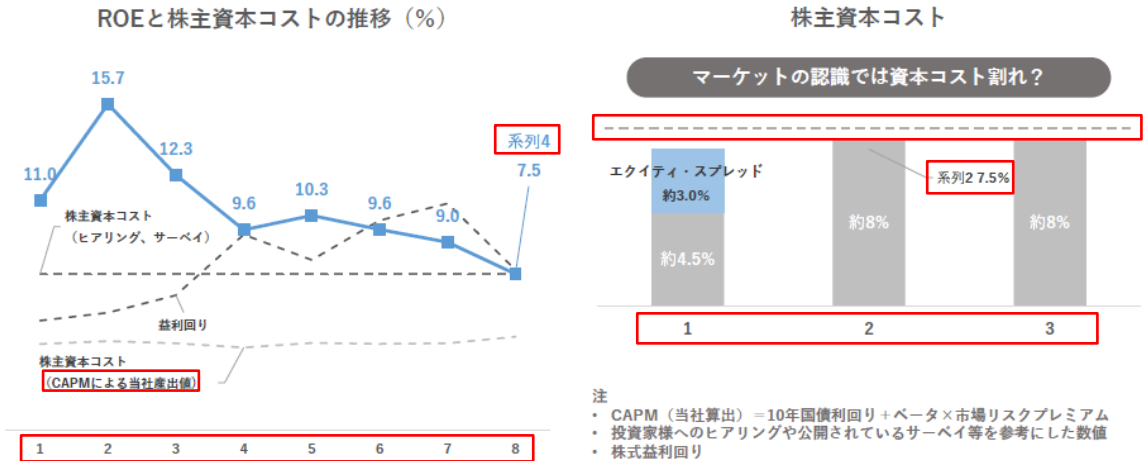


② 現状分析 株価資本コストと資本収益性の比較（5ページ）

【訂正前】

現状分析 株主資本コストと資本収益性の比較

- ROEとの差（エクイティ・スプレッド）が近年縮小し、直近では資本コスト割れの可能性もある。
- マーケットを意識した株主資本コスト水準はROE8%を上回ることが求められている。
- 今後、第二次中期経営計画の8.7%をクリアし、さらに10%水準を目指すことで、持続的に企業価値を高めることが可能。



【訂正後】

現状分析 株主資本コストと資本収益性の比較

- ROEとの差（エクイティ・スプレッド）が近年縮小し、直近では資本コスト割れの可能性もある。
- マーケットを意識した株主資本コスト水準はROE8%を上回ることが求められている。
- 今後、第二次中期経営計画の8.7%をクリアし、さらに10%水準を目指すことで、持続的に企業価値を高めることが可能。

